梅花新聞【香里】
第43号
題字　管長　江川辰三　禅師
発行者　鬼生田　俊英
発行所　曹洞宗宗務庁
企画編集　伝道部詠道課

被災地熊本に大輪の梅花咲く

令和元年度梅花流全国奉詠大会

熊本県上益城郡益城町の「グランメッセ熊本」で5月22日・23日、令和元年度梅花流全国奉詠大会が盛大に開催された。「心ひとつに祈りの梅花」をテーマに、18年ぶりに九州の地に全国から梅花講員が結集した。

（詳細は第2面）

初夏を感じる強い日差しのなか、続々と到着する大型バスから梅花服に身を包んだ講員が眩しそうに降り立つ。すぐ目の前には、全面ガラスに覆われたグランメッセ熊本の巨大な姿。まずはその大きさに驚き、次に阿蘇外輪の山々を望む開放的な景色に包まれ笑顔となる。そのような光景が繰り返され、各日およそ3000人が訪れた。

大きな会場を活かした壮大なステージが今大会の特徴。長さは60メートル。100人が横一列に並んでお唱えできるように設え、同時に400人までの登壇奉詠を可能にした。

全12組の全員登壇に加え、中国浙江省寧波市にある雪竇山資聖禅寺（せっちょうざんししょうぜんじ）で詠讃歌を学ぶ40名が特別登壇奉詠し、梅花流のお唱え作法が伝えられていることを披露。曹洞宗宗務庁より友好の旗が手渡され、今後も交流を深めていくことが約束された。

清興は、熊本市出身の歌手、水前寺清子さんのコンサート。熊本地震からの復興への強い思いと願いを伝え「熊本城」など数曲を熱唱した。

全員で「まごころに生きる」を大合唱して、2日間に亘る大会は終了。両日とも晴天に恵まれ、清らかな祈りの梅花が満開となった。

14年ぶりに北海道で開催!!

2020年5月27日・28日に札幌市で

火の国熊本から、北の大地へと舞台は移る。令和2回目の梅花流全国奉詠大会は、北海道立真駒内公園屋内競技場・真駒内セキスイハイムアイスアリーナ（札幌市南区）での開催が決定した。同会場では昭和53年以来2度目。

東京オリンピックを前に、北海道は梅花流で盛り上がりそうだ。

熊本での大会閉会式で、令和2年度の開催地が北海道札幌市と発表された。会場となるアイスアリーナは、昭和45年に竣工され、札幌オリンピックの閉会式が行われた歴史ある施設。スケートやアイスホッケーは元より夏季も各種スポーツに、また、札幌市中心部からのアクセスの良さからコンサートや展示会の会場にと多目的に利用されている。収容人員は約一万人。

北海道といえば、平成30年の北海道胆振東部地震の記憶が新しい。道内全域に影響した大規模停電「ブラックアウト」が印象深いが、土砂崩れにより尊い人命も多数失われている。家屋の倒壊等で未だ苦難を強いられている方も多く、復興の途上であることを忘れてはならない。熊本で祈りの梅花を咲かせたように、北海道でも妙なる梅花流が響き渡るよう参加を募る。

真駒内セキスイハムアイスアリーナ外観

お誓い

私達は梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
私達は梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活（くらし）をいたします。
私達は梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくります。

大会概要

午前10時、大梵鐘が鳴り、大型LED画面に道元禅師と熊本との由縁の映像が流れ開会。中国での修行を終えて日本に帰って来られた際の船が熊本に着いたことから、熊本には禅師ゆかりの寺院が多数あることが紹介された。

続いて牛深ハイヤ保存会によるハイヤ節の唄と踊りが披露された。牛深港に寄港した船乗りたちをもてなすために始まったという伝統芸能で、広いステージをいっぱいに使い全国より集った梅花講員を賑やかに歓迎した。

中村見自伝道部長が登場して開会宣言をすると、ファンファーレと共にステージ上の竹灯りが一斉に点り幻想的な空間が湧出。続く献灯献花では、浄国寺高平幼稚園・妙音寺幼楽園の園児各20名が、緊張していながらもしっかりとお供えし小さな掌を合わせていた。地元梅花講員による「お誓い」挙唱に合わせ、参加者全員で唱和し開会式へと移った。

御垂示される江川辰三禅師

「三宝御和讃」奉詠のなか、曹洞宗管長江川辰三禅師（大本山總持寺貫首）が上殿され「般若心経」の読経と「大聖釈迦牟尼如来讃仰御詠歌（高嶺）」を奉詠して一仏両祖に回向。引き続き江川禅師導師のもと、熊本地震・自然災害物故者追悼法要が厳修され「舎利礼文」と「追善供養御詠歌（妙鐘）」で供養した。法要後に江川禅師は「本大会は熊本地震からの復興をお祈りする大会であり、皆さまのお唱えにより苦境にある方々に梅花の法輪が伝わり、仏縁が生まれるようお祈りいたします」とのお言葉を示された。

式典では、鬼生田俊英宗務総長が式辞を述べ、村上和光熊本県第二宗務所長と共に登壇した田中孝典熊本県第一宗務所長が歓迎の挨拶をした。

特別登壇奉詠　雪竇山資聖禅寺のみなさん

今大会は参加した講員全員が登壇し、各日12組が奉詠。長いステージいっぱいに広がった登壇風景は圧巻であり、迫力のある奉詠が続いた。更に、雪竇山資聖禅寺（せっちょうざんししょうぜんじ）の方々が「釈尊花祭第一番御詠歌（歓喜）」を奉詠し、特別所作も華麗に行う習熟したお唱えに盛大な賞賛の拍手が送られた。

清興の開始を告げるほら貝が響き、登場したのは熊本城おもてなし武将隊。派手なパフォーマンスで水前寺清子さんを呼び込み、いよいよコンサートがスタート。水前寺さんの明るい人柄と話術、そして力強い歌声に会場は大いに沸いた。「ありがとう」「熊本城」を熱唱し、最後は「三百六十五歩のマーチ」で盛り上げ、大きな歓声につつまれた。

「三百六十五歩のマーチ」を歌う水前寺清子さん

長い一日の終わりには、詠讃師の「坐禅御詠歌（浄心）」の独詠で静かに坐り心を調えた。閉会式で次年度の開催地が発表され、岩井淳一北海道管区長が挨拶し札幌での再会を呼びかけた。フィナーレは恒例の「まごころに生きる」の大合唱。熊本に咲いた令和最初の梅花流全国奉詠大会は笑顔のなかで閉会した。

綿密な準備をした熊本の方々の努力が実を結び、九州各地から集ったスタッフの協力が大成功に導いた素晴らしい大会であった。

肥後熊本、よかったばい！

功徳のグルメ

サラダパンなのに中身は…
たくあん漬け！細かく刻んで特製マヨネーズで和えてある…
おぉ、鼻に抜ける微かな糠の匂いがたまらんっ!! うまい。
もう１個、と手が伸びるクセになる味わいだ。

滋賀県で出会える異色の逸品。ぜひご賞味あれ。願わくは此の功徳を以って・・・ごちそうさまでした。

供養編CDを発売

このほど宗務庁出版部より『梅花流詠讃歌CD供養編～御霊よ永久に安らわん～』が発売された。「大切な人を亡くされた方に聴いていただきたい」というコンセプトで選曲し、梅花流が持つ供養のまごころを一枚に収めている。

頒価1,000円＋税
お求めは曹洞宗ブックセンターまで。
フリーダイヤル
0120-498-971

寺院関係者からは、葬儀の際にご遺族への奉呈品として最適と好評を博している。また、仏壇に掌を合わせる時にいつも聴いているという檀信徒の声も。収録曲は次の通り。

追弔御和讃／新亡精霊供養御和讃／無常御和讃／追善供養御和讃／報恩供養御和讃／盂蘭盆会御和讃／彼岸御和讃／坐禅御詠歌（浄心）

全国奉詠大会に参加して

北海道空知郡　菩提寺梅花講　佐藤美智子

爽やかな五月の好日に、熊本産業展示場グランメッセ熊本に於いて、令和元年度梅花流全国奉詠大会が開催されました。北海道第二宗務所は、二日目の二十三日に岩手県と合同で登壇し「大聖釈迦如来成道御詠歌（明星）」をお唱えして日頃の練習成果を発揮致しました。

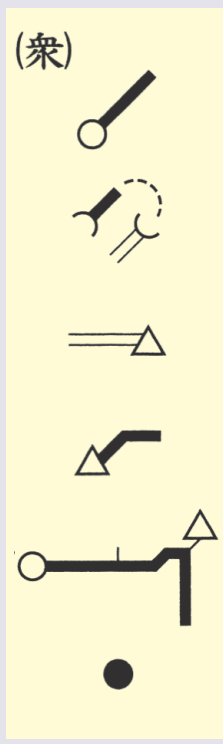
震度七を二度も記録した熊本地震からの復興には、まだまだ時間がかかる事と思います。被災された方々のご参加や、復興への願いを込めて子供たちが須弥壇にお花をお供えした姿が心に残っています。

北海道も昨年九月、北海道胆振東部地震がありました。道民が一丸となり、また震災に遭われた地域の一人一人が復興に向けて頑張っております。北海道は遊びに行きたい場所で三年連続一位です。広大な大地、グルメ満載、どれを取っても満足をしていただける事と思います。

来年（令和二年）の梅花流全国奉詠大会には一人でも多くの方々のご参加を心よりお待ち申し上げております。

ばいかクイズ

さて、この曲は何でしょう？



第二十三期 師範養成所始まる

梅花流師範養成所が開所され6月10日、曹洞宗檀信徒会館を会場に入所者66名が開講式に臨んだ。片岡修一師範を主任講師に、前期は谷口充洋、山﨑隆宏、西村承品の各師範が指導にあたる。

半数以上が未経験者であり、法具の扱いや梅花譜の見方などの基礎から学んだ。所員は、5日間の日程を研修道場に泊まり込み講習を受ける。寝食を共にすることで絆が深まり、互いに切磋琢磨しながら曲を修得していく。

14日に第一回の養成課程を終え、全体班長の島村哲哉さん（福島県千相院）は、「どの曲でも自信を持って模範となるお唱えが出来るように研鑽したい」と抱負を述べた。「同じ志を携えて集まった者同士、まず梅花の楽しさを学び、そして伝える喜びを持てる師範に育ってほしい」という片岡主任講師のもと、梅花流の新たな伝道師たちの開花が待たれる。

梅花流師範養成所―梅花流の指導者の養成を図るため、宗門が開設する機関。各宗務所長が梅花流に熱意のある者を選定し、伝道部長が精査し入所させる。昭和53年に創設された。5日間の研修を2年間で6回、計30日の養成課程で運営されている。

被災地だより

平成二八年四月十六日一時二五分、熊本を襲った震度七の大地震。本堂は平成七年に、鐘楼堂は平成二四年に建立したばかりでした。全景が整って住職の夢も叶ったと安堵したのも束の間、儚く崩れてしまいました。大変な思いをして建立したのにと、心も崩れそうになりました。

しかし、何とか元の状態に戻さなくてはと再び立ち上がりました。鐘楼堂は昨年完成し除夜の鐘も撞くことができ、本堂もあと一歩で完成といったところです。これもひとえに多くの皆様の励ましの賜物と深く感謝致しております。

幸いにも、庫裏は被害があまりなかったので、梅花のお稽古は庫裏でしています。全国奉詠大会には何とか出席しなければと、講のみんなが張り切って参加し、大きな感動を戴いて来ました。又、素晴らしい梅花流をこれからも是非継続していきたいという思いを強く持ちました。

被害に遭い落ち込む事もありましたが、全国遠路よりお越しの皆様に大きな力を戴きました。これを糧に、本堂再建にむけもうひと頑張りしなければと思います。熊本での大会にお越し戴きました皆様に感謝と御礼を申し上げます。

極楽寺寺族　林 奈美子

“全壊”した極楽寺本堂

ワンポイントレッスン

同行御詠歌（道交）

昭和五十年、高祖道元禅師の詠まれた歌に京都隠龍寺児玉健司師範作曲により発表されました。

故児玉師範は第四期師範養成所主任講師として梅花流詠讃歌のイロハからご指導いただきました大恩人でございます。

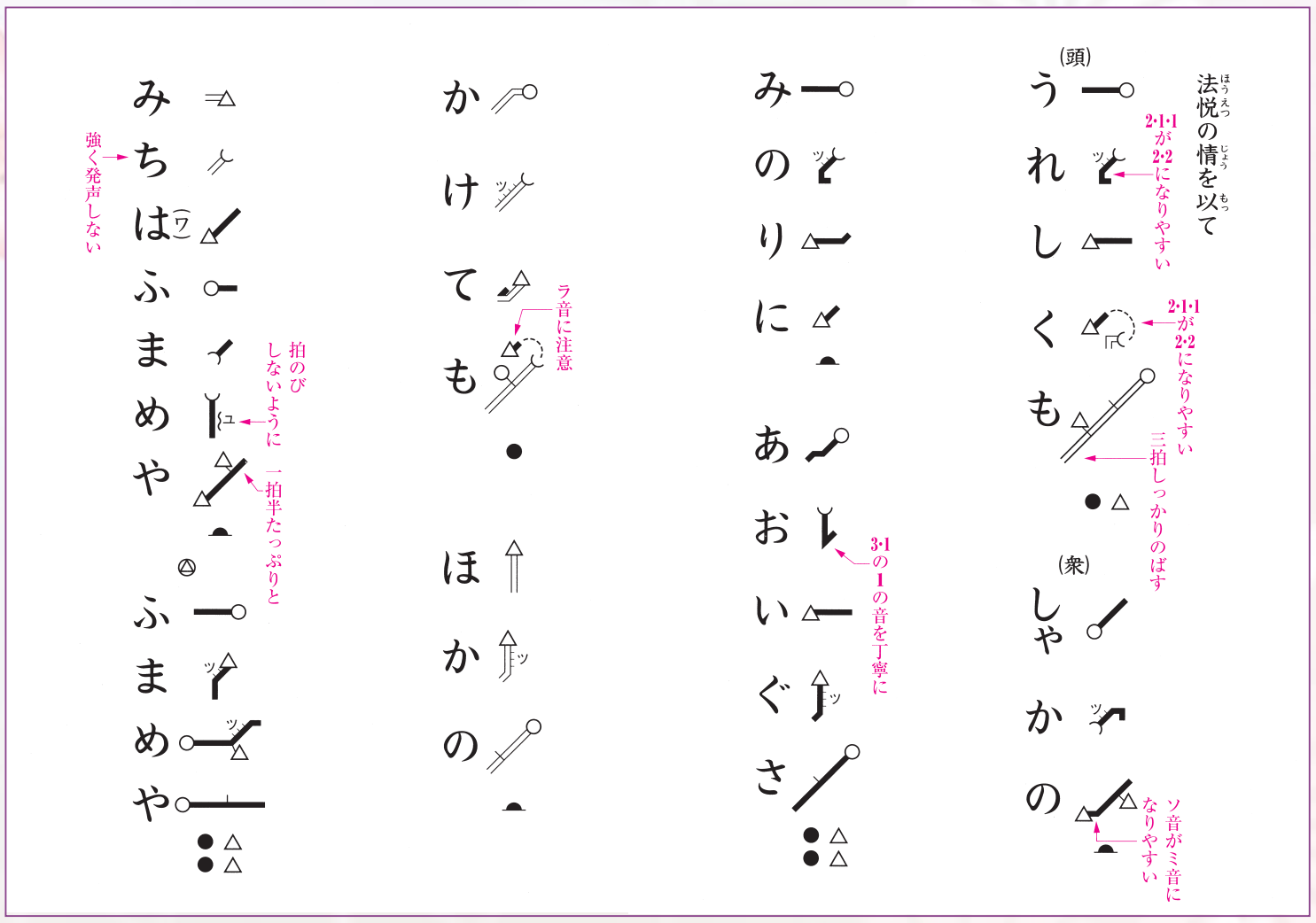
今回師作曲のワンポイントレッスンに寄稿させていただく事となり、不思議なご縁と共に少し御恩返しできたかなと感じております。

詠頭の部分、歌詞・メロディーを生かし嬉しさ・気持ちの昂揚を充分に表現してください。又、音程では一行目、三行目の2-1-1から1-3に移る際の1の音にご注意ください。一佛両祖さまのみ教えに出会う事が出来た喜び、梅花流詠讃歌に出会えた喜び、そしてそれを通して多くのご縁をいただいた喜び、全てを歌い上げてください。

皆さまの健康と益々のご精進をご祈念申し上げます。

梅花流専門委員
兵庫県
楊林寺住職
西村 眞典

たくさんの教えを学ぶ梅花流は、正しい信仰生活を導いていきます。
これからも同行同修のお仲間と詠道を歩み交流を深めていきましょう。



梅花妙楽

■時代が平成から令和に変わる頃、詠道課は全国大会の準備で忙しい日々を過ごしていた。今回も？いろいろな難題があり、ギリギリのところで何とか解決しながら本番に辿り着いた。携わっていただいた方々の好意的なご協力のおかげであり、心から御礼を申し上げたい。

■これまであまり熊本との関わりはなかったが、全国大会を通して良いご縁をいただいた。また訪れたいと思う場所となった。心残りは全く観光をしていないことで、熊本城も車窓から櫓を眺めた程度。次回は仕事ではなくぜひ旅行で行きたいものだ。

■旅行といえば「はんばぎぬぎ」という風習をご存知だろうか。諸説あるが「絆履き脱ぎ」と書くらしい。脚絆を脱ぐ意であるが、要は旅から帰ったあとに行う慰労会のことである。旅の思い出を共有する酒宴で、無事に帰ったことを祝う意味がある。

■全国大会に参加された皆さんは「はんばぎぬぎ」はもうお済みか。共にお稽古する仲間と仲良く旅をし、無事に帰ってまた笑顔でお寺に集う。そういう楽しさも梅花流の魅力に違いない。詠道課は次の旅の脚絆をつけたところだ。

◆クイズの答えは
三宝御和讃

●法具寄贈のお願い●

詠道課では、中古の梅花法具を収集し自然災害などで被災された講員や僧堂にお送りして活用しています。眠っている法具がありましたら、下記までご送付ください。

〒105-8544
東京都港区芝 2-5-2
伝道部詠道課「中古法具」係
03-3454-5416
※送料はご負担願います。

梅花流全国奉詠大会 in 熊本
大会頒布品のご案内

大会記念 クリップセット

価格 300円

ばいかくん ばいかさんふせん

価格 300円

数量に限りがありますが
是非この機会にお求めください

大会バッチ柄　根付
大会バッチと同じ柄の
根付ストラップです
※実際の紐はオレンジ色です
価格 300円

お求めは フリーダイヤル 0120-498-971
FAX 03-3768-3561 曹洞宗ブックセンターまで
※価格はすべて税込です。送料・代引手数料別途